

社会科学の発展を考える円卓会議委員 各位

第3期・第8回会議「ジェンダーと社会科学」のご案内（趣旨文）

一橋大学長 中野 聡

委員各位には平素より本学に対して多大のご厚誼を賜り深く感謝申し上げます。

「産官学のすべての英知を結集して日本の社会科学を発展させるための方策を構想していく場」として本学が2018年に設置した「社会科学の発展を考える円卓会議」は、これまで委員各位のご協力の下、3期・7回にわたり開催されてきました。第1期（第1回～第3回）においては、日本の社会科学の国際競争力強化に向けた課題として人材育成、研究、財政基盤とガバナンスをめぐる問題をそれぞれ検討し、第2期（第4回～第6回）においては、これからの時代に社会科学に求められる新しい課題としてデータサイエンスとEBPM、文理共創、社会との共創をめぐる課題を検討してきました。そして、昨年度から開始した第3期においては、これまで検討されてこなかった具体的な課題を取り上げ、その課題をめぐって日本の社会科学が世界に伍して貢献していくためには何が必要とされているのか議論を深めたいと考えております。前回（第7回：2023年1月開催）は「医療・健康と社会科学」をテーマに設定し、委員各位から貴重なご意見、ご提言をいただいたところです。

今回開催する第3期第2回（通期第8回）においては、「ジェンダーと社会科学」をテーマに設定いたしました。ジェンダー・ギャップ指数において先進諸国中で最下位に低迷するとともに人口減少・少子高齢化が加速する日本において、ジェンダー平等の実現は喫緊の社会課題であり、日本の社会科学が取り組まなければならない最重要の研究課題のひとつであることは言うまでもありません。同時に、日本の社会科学を牽引する一橋大学がその使命を果たしていくためにも、ジェンダー平等の実現は、自らが学術コミュニティとして取り組まなければならない課題であり、国立大学法人としての最も重要な経営改革の課題のひとつでもあります。以上の観点から、今回の円卓会議では、日本社会の課題としてのジェンダー平等を、そして日本の研究大学・経営体におけるジェンダー平等を実現していくためには何が求められているかを議論の主題にしたいと思います。

議論のための話題提供者としては、本円卓会議の委員であり、ジェンダーを含む多様性推進の重要性について様々な場で発言をされ、この問題をリードしてこられた渡辺美代子先生、そして本学からは、10年以上にわたり本学が全学レベルで実施しているジェンダー教育プログラムの推進に尽力してきた社会学研究科の貴堂嘉之教授、及びダイバーシティ担当の野口貴公美副学長が登壇予定です。委員各位には、忌憚のない活発な議論を展開していただければ幸いです。